

オープンソースインテリジェンスによる テロ対策の強化

テロ行為は、爆撃やハイジャックから海賊行為や誘拐まで多岐にわたります。これらの行為は、組織化された集団やネットワークの一員として行動するテロリストといわゆる一匹狼（単独犯）という少なくとも2種類のテロリストによって行われます。単独犯とは、組織化されたグループの加勢を受けずに文字通り単独（または2人）で活動するテロリストを指します。

効果的なテロ対策は、組織化されたテロリスト集団と単独犯の両方を阻止することにかかっています。これは複雑で多面的な取り組みであり、通常、さまざまな政府機関によって調整された多様な戦略と戦術が関わってきます。たとえば、米国では、FBI、CIA、国土安全保障省、国家安全保障局といった組織がいずれもテロと闘っています。また、英国では、MI5やMI6などのセキュリティサービス、政府通信本部、警察機関内の専門部隊（特にロンドン警視庁のテロ対策司令部）などの機関が責任を分担しています。

オープンソースインテリジェンス（OSINT）、つまり一般に公開されている情報や商業的に入手可能な情報（PAI/CAI）の処理と分析から得られるインテリジェンスは、効果的なテロ対策に不可欠な要素です。Babel Street Insights OSINTソリューションは、膨大なPAIおよびCAIの情報源を永続的に検索します。情報源には、10億を超えるトップレベルドメイン、チャット、ソーシャルメディアへの投稿、オンラインコメント、メッセージボードで発生した実際のやり取りが含まれます。Insightsは、200以上の言語（アラビア語、中国語、ロシア語、その他の非ラテン文字で表記された言語を含む）を理解し、情報をユーザーが選択した言語に翻訳します。以下のような機能が、テロ対策専門家に役立つと考えられます。

- 過激派の摘発と勧誘の阻止
- テロリストのネットワークを分析
- テロ計画を解体
- 資金の流れを追跡し、阻止する

仕組み

テロリストのネットワークを突破

ヒズボラはレバノンのイスラム教シーア派組織であり、イスラエルに非友好的である一方、イランとは宗教的および戦略的に密接な関係があります。米国国務省はヒズボラをテロ組織に指定しました。イスラエルとハマスの戦争により、ヒズボラとイスラエルの間で攻撃と反撃が続いています。

Babel Street Insightsは、テロ対策アナリストが今後ヒズボラがイスラエルに侵攻する可能性を判断し、すでに混乱している中東関係における同組織の役割を見定めるのに役立ちます。



この反イスラエル感情は、パレスチナの武装勢力であるトゥルカレム旅団の活動を称賛するものです。

テロ対策の専門家は、「ヒズボラ」、「ナスララ」（ヒズボラ事務総長の姓）、「イスラエル」などのキーワード検索から分析を始めることができます。これにより、X（旧ツイッター）やフェイスブックからMSNやmanartv.com（ヒズボラ関連のアラビア語衛星放送局）まで、さまざまなサイトから過去30日間に投稿された数十万件の文書がヒットする可能性があります。（Insightsは、ヒズボラ [Hezbollah] の別の綴りであるHizbollahやHizballahなど）を使った文書にも自動的に反応します）。

この時点から、アナリストはヒズボラの過去の活動を調査して将来の行動を予測します。たとえば、主流のニュースソースは、進行中のイスラエル・ハマスの戦争の一環として、ヒズボラとハマスが会談し、イスラエルに対する「強化された」行動²について話し合ったと報じています。テロ対策の専門家は、ヒズボラと反イスラエル勢力（特にイエメンのフーシ派）との関係についてもさらに詳しく知ることができるでしょう。

中東で今後起こり得る出来事を予測しようとするアナリストは、この情報を調べることができます。まずアナリストにできることは、データソース別の表示と絞り込みです。中東におけるヒズボラの役割についてより深く客観的に調べたいのであれば、信頼できるニュースソースで絞り込むこともできます。ヒズボラのメンバーや支持者がどう考えているかを知りたい場合は、ソーシャルメディアの投稿を検索して、同組織に合ったキーワードを探することができます。雑談や将来可能な計画にアクセスしたい場合は、ヒズボラが使用する既知のコードワードと一致する検索語を入力できます。

時間を節約できるBabel Streetの永続的な検索機能は、この取り組みの重要な部分です。永続的な検索では、ユーザーがその時点で積極的に検索しているかどうかに関係なく、新しい情報が見つかるたびに、新しい文書が検索語に継続的に添付されます。

ヒズボラとフーシ派およびハマスの関係や、将来起こり得るイスラエルへの攻撃について懸念するアナリストは、どのヒズボラメンバーがフーシ派またはハマスのメンバーと何らかの形でつながっているかを知りたいと思うかもしれません。アナリストは、過去の検索で見つかった名前とエイリアスを使用して、Babel Street Insights Synthesisにより関係をグラフ化できます。Synthesisにヒズボラの名前と既知のエイリアスを入力することで、ソーシャルネットワーク内の重要な関係をマッピングし、最も影響力のある人物を正確に特定できます。テロ対策の専門家は、それに応じて調査を調整できます。

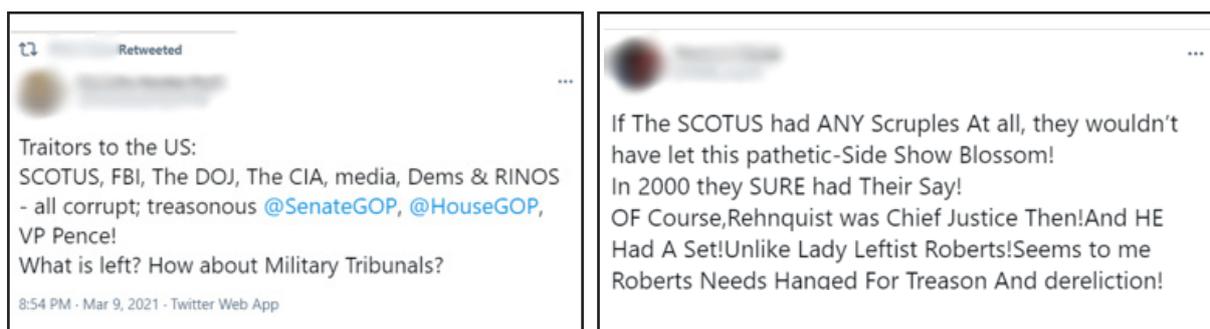
単独犯の追跡

上記の例では、アナリストはヒズボラについてもっと知りたいという明確な検索に着手しています。では、Insightを使って、アナリストはどのように単独犯を追跡できるのでしょうか。このようなテロリストは、その性質上、レーダーの目をかいくぐって行動するものです。アナリストには検索できる組織名も個人名もなく、洞察を得るために調査すべき信頼できるニュースソースもありません。

このような場合、アナリストはBabel Street Insightsを使用して単独テロに関連する検索用語を見つけます。そこから、オンラインコミュニケーションでこれらの用語を使用している人物をより深く掘り下げることができます。検索は、ダークウェブのチャットグループやマーケットプレイス、主流およびニッチなソーシャルメディアサイトなど、さまざまなサイトで実行できます。

単独テロに関連する用語にはどのようなものがありますか？ Babel Streetは、「全滅」から「大虐殺」や「爆発」まで、200種類以上の単語を特定しています。これらのキーワードには、ハッシュタグでよく使われる単語、記号、フレーズが含まれます。³ また、米国の国内テロリズムに関心のあるアナリストは、「Where We Go One, We Go All」の頭字語である#WWG1WGAを検索するでしょう。これはQAnon陰謀論運動のモットーです。⁴ Insightsでは、銃、頭蓋骨、爆弾、剣の描写など、暴力を連想させる絵文字を検索することもできます。

この架空の例では、国内テロに関心のあるアナリストがXでこのような危険信号となるキーワードを検索することがあります。そこでは、連邦政府に対する激しい憎悪を表明するLive2Kill583というスクリーンネームのユーザーを見つけます。その人物は「カバールを全滅させ」、「嵐を巻き起こす」ことを望んでいます。その投稿の後には頭蓋骨の絵文字が続きます。また、ハッシュタ



上記のような投稿は、連邦政府に対する深い不満を示すものでした。

グ#WWGIWGAを使っています。このハッシュタグは、投稿者がQAnonに傾倒していることを暗示するものです。⁵ QAnonの世界観において「カバール」は、世界政府を密かに支配する影のグループであることもアナリストらは知っています。「嵐」とは、「カバール」のメンバーが発見されて逮捕され、処刑される出来事を表します。⁶

このツイートに興味を持ったアナリストは、同ユーザーのXプロフィールにアクセスします。そこで、投稿者がクリーブランド出身と記載されていることに気づきます。「いいね」の下には、「Big Mel'sでWTPCの仲間たちとぶらぶらしている。真の愛国者、銃と弾薬」とあります。アナリストがざっと検索したところ、Big Mel's Billiardsがクリーブランドのビリヤード場であることがわかります。その後、アナリストはフェイスブック、インスタグラム、その他のソーシャルメディアサイトで「Big Mel's」という名前を検索します。検索すると多くの投稿がヒットし、Big Mel'sが人気のたまり場であることがわかります。WTPC（QAnonの分派である「We the People Convention」の略⁷）という頭字語で検索を絞り込むと、さまざまなソーシャルメディアユーザーをタグ付けした写真がいくつか見つかります。そのうちの一人はクリーブランドのジョン・スミスで、自分のメールアドレスをLive2Kill528@Americas1SP.comと記載しています。

ソーシャルメディアユーザーのプロフィールから、アナリストはこのジョン・スミスが20代半ばの白人男性であることを知ります。その人物は、自らの職業を「パートタイムの造園家 @LawnDesignsInc、#greatawakeningのフルタイムの愛国者」と挙げています。（ちなみに、「Great awakening（大いなる覚醒）」もQAnonに関連するハッシュタグです。⁸）Insightの人物検索機能を使用すれば、アナリストはそのソーシャルメディアユーザーの自宅住所と連絡先情報を簡単に見つけることができます。

このジョン・スミスが脅威となる人物かどうかを判断するには、さらなる調査が必要です。アナリストは、ジョン・スミスがさまざまなアカウントで同じスクリーンネームを使用していることを知っています。そこで、いくつかのダークウェブマーケットプレイスで「Live2Kill」を検索することにしました。そのうちの1件で、アナリストは、そのスクリーンネームを使っている人物が、「中国発・最高の美容用品」と宣伝する投稿者とやりとりしていることに気づきます。投稿者はジョン・スミスに、同美容用品店からの「過剰生産品」の「保証付き配送」を約束します。これらは密輸品によく使われる表現です。「保証付き配送」⁹は、売り手が国境警備プロセスを回避する方法を心得ていることを意味します。「中身がわからないように包装」とは、税関をはじめとする他人に内容物を知られたくない買い手と売り手を使用するフレーズです。¹⁰ アナリストがさらに調査を進めたところ、この特定の売り手は大量のマニキュア除去液を頻繁に出荷していることがわかりました。除光液に使用されるアセトンは、ある種の爆発物製造の前駆体化学物質です。そのため、クリーブランドのジョン・スミスは問題視される可能性があります。



Babel Streetが選ばれる理由

Babel Street Insightsは、現実世界の災害防止に役立っています。2023年にラスベガスで開催されたF1グランプリの前には、民間の警備会社がBabel Streetと協力して、会場、ゲスト、ドライバーに対するリスクを洗い出し、軽減させました。Babel Street Insightsは、ラスベガスを拠点とし、イベントを妨害しようと計画していた個人のグループを警備会社が特定する手助けをしました。その同年、Babel Streetのクライアントが、大量射殺を予告するある作家の投稿を発見しました。そこにはターゲットにする予定の人物の名前さえ書き込まれていました。Babel Street Insightsが生成した極めて重要な情報を使って、警察当局は殺人犯となる人物を追跡しました。銃器や手榴弾を所持していたこの男は、計画を実行に移す前に逮捕されました。また、Babel Street Insightsは、家族計画クリニックの爆破計画を示唆する投稿をした男をヨーロッパの法執行機関が見つ出し、監視する際にも役立ちました。

組織立った集団であれ単独犯であれ、テロリストを発見し阻止することは、世界中の国家と個人の安全を確保するために不可欠です。Babel Streetは、多様なデータソースを実用的なインサイトに変換する高度なデータと分析ソリューションを提供することで支援することができます。

巻末資料

¹ National Counterterrorism Center, "Lebanese Hizballah," September 2022, https://www.dni.gov/nctc/ftos/lebanese_hizballah_fto.html#:~:text=The%20US%20State%20Department%20designated,entirety%E2%80%94as%20a%20terrorist%20group.

² Times of Israel, "Terror chiefs Nasrallah, Haniyeh meet in Beirut, vow 'intensified' anti-Israel action," April 2023, <https://www.timesofisrael.com/terror-chiefs-nasrallah-haniyeh-meet-in-beirut-to-discuss-cooperation-amid-violence/>

³ Crimando, Steve, "Q Speak: The Language of QAnon," ASIS International (The American Society for Industrial Security), January 2021, <https://www.asisonline.org/security-management-magazine/latest-news/online-exclusives/2021/q-speak-the-language-of-qanon/>

⁴ Ibid

⁵ Ibid

⁶ Ibid

⁷ Fox8 News, "Ohio political group asks Trump to impose martial law, hold new election," December 2020, https://fox8.com/news/ohio-political-group-asks-trump-to-impose-martial-law-hold-new-election/?fbclid=IwY2xjawEkyGJleHRuA2FlbQixMQABHeZ_iMXRwW-GO4iOLXU2B9KC2BITYHOEozXHccvQD5VymAnujWU8JRop2A_aem_TTYFMrkRYFfSbW3aug5UGw

⁸ Crimando, Steve, "Q Speak: The Language of QAnon," ASIS International (The American Society for Industrial Security), January 2021, <https://www.asisonline.org/security-management-magazine/latest-news/online-exclusives/2021/q-speak-the-language-of-qanon/>

⁹ Babel Street, 2024

¹⁰ Ibid

免責事項 :

この文書に記載されているすべての名称、企業、事象は架空のものです。実在の人物（生死を問わない）、場所、会社、製品と同一とみなすことは意図されておらず、そのように推測されるべきでもありません。

Babel Street は、世界で最も高度なアイデンティティ・インテリジェンスとリスク管理を可能にする、信頼、実績のあるテクノロジーパートナーです。Babel Street Insights プラットフォームは、リスクと信頼のギャップを埋める高度な AI およびデータ分析ソリューションを提供します。

Babel Street は、言語を問わず他に類を見ない分析対応データ、能動的なリスク識別、360 度のインサイト、高速自動化、既存システムへのシームレスな統合を提供します。当社は、政府機関や企業組織が、重要なアイデンティティおよびリスク管理を戦略的な優位性に変換できるように支援します。

詳細については、babelstreet.jp をご覧ください。